

赤ウレックス

「FASSE関西」に出展 総合衛生管理サービス訴求

食の安全・安心を支える

オフィスパイル、食品・医薬品工場など建物、施設向けの環境整備・維持管理サービスの全国展開に取り組む赤門ウレックス(社長 山田幸司氏、本部・愛知県長久手市)の2018年9月期(2017年10月〜2018年9月)業績は、空調ダクトクリーニング、空調ドレン管洗浄、改修・解体工事の際のアスベスト対策など主力業容が伸長し、前の期と比べてプラス着地を果たした。取り分け、アスベスト対策は、市街地再開発に伴う需要増により、業績の伸びを下支えした。

同社の創業は1982年(昭和57年)4月。スタート当初は害虫防除のほか、空調ダクトのクリーニングを手がけ、この分野の先陣を切った。以降、着実に業容拡大を図り、総合衛生管理サービスで独自のポジションを確立した。

国内ネットワークは本社、長久手本部のほか、支店2カ所(東京、刈谷)、営業室3カ所(関東、関西、中部)、事業所12カ所(刈谷、犬山、信州、利根、湘南、多摩、埼玉)で構成。全

2018 空調冷熱 中部秋季特集

備維持管理を含む総合衛生管理は豊富な実績を持つもので、食に関わる安全・安心をしっかりと支えている。

空調関連のソリューションでは空調システムメンテナンスがある。このメニューには空調ダクトのクリーニングをはじめ、冷却塔や冷凍機、空調機のメンテナンスなどがあり、空調ダクトのクリーニングは同社独自のIAQ工法によって行われる。この工法は、IAQポートと呼ぶ簡易点検口をダクトに取り付け、ビデオスコープでダクト内部を調査、清掃専用ツール(エアウィップ)でダクト内に堆積している粉塵を舞い上げ、集塵機で吸引するというもの。空調ダクトのクリーニングは室内空気環境の劣化予防に欠かせないものだが、同社では独自の法を駆使して清浄度維持を実現する。また、空調機メンテナンスではエアハンドリングユニット、天カセ室内機、高所設置の空調機、ドレン管詰まり対策、フィルタ交換、断熱材交換などにも対応している。

赤門ウレックスは10月23日から25日までインテックス大阪(大阪市住之江区)2号館で開催される「FASSE関西2018(食品工場自動化・安全機器展)」(主催・日刊工業新聞社)に出展する小間番号2G-36。天井落下防止システム、防虫対策、カビ対策、オリジナル吸引式捕虫機などを展示するほか、ダクトクリーニング、排水管洗浄の実演を行い、HACC P制度化に対応する同社の衛生管理サービスを訴求する。今9月下期には来年7月9日から12日まで、東京ビックサイト(西展示棟1〜4ホール・南展示棟1〜4ホール)で開催される「FOOMA JAPAN2019 国際食品工業展」(主催・一般社団法人日本食品機械工業会)に出展する計画。また、プレゼンテーションセミナーを通じて同社の総合衛生管理サービスを広くアピールすることを予定している。